

廃校のキッチン ～農村で生まれる新しいコミュニティの空間～

Background

近年少子高齢化社会が進み、地方では過疎化が進みつつあり、そして、人口減少ともに使われない建物が増加する傾向にある。この傾向から使われない建物を違う用途へコンバージョンすることを近年行われるようになり、地域ごとの特色を生かした提案がされている。

Concept

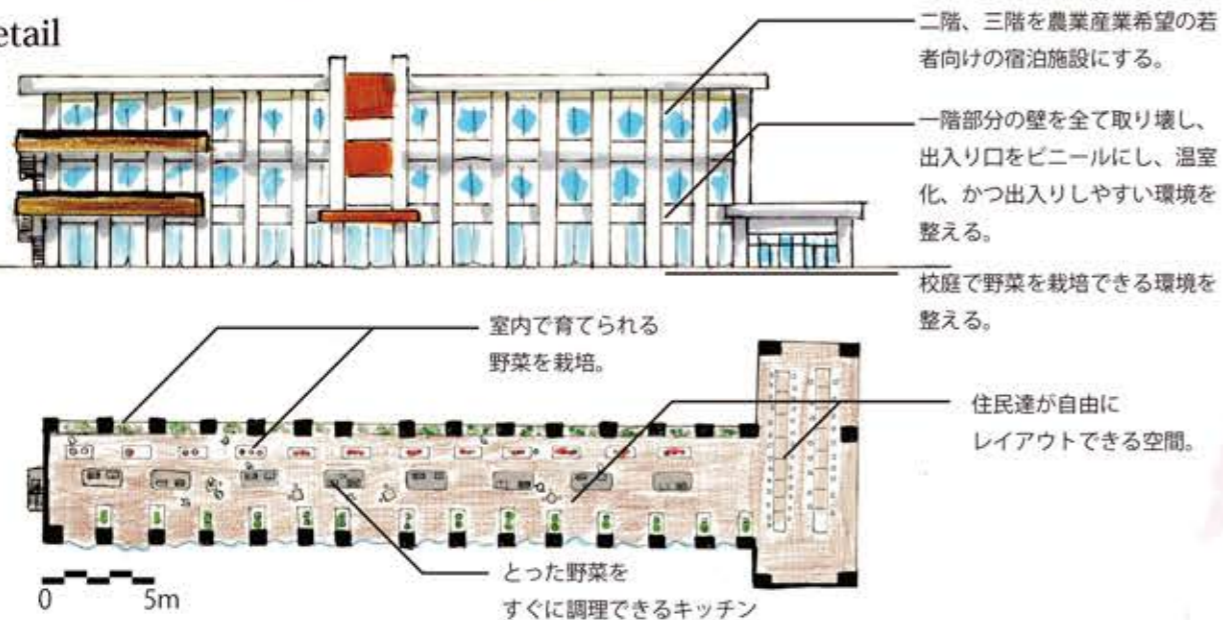
少子化がすすみ、「使われなくなった学校」=「廃校」と呼ばれるようになってしまった建物を利用した人口が減少していく農山村地域のコミュニティ作りに一躍買える提案を行う。現代社会のひとつのコンバージョンの答えをとして、農村を取れ立て野菜が食べれる環境「食料庫」、廃校をみんながごはんを作る場所=「キッチン」に例え、農村の人たちが使う共有に使える、今後の農業を担う若者達も呼び込むことが出来る様な空間を提案する。

Site

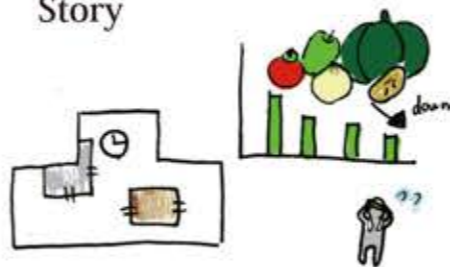
提案する敷地は鳥取県琴浦町のある、廃校してしまった旧古布庄小学校である。この敷地周囲には畑、田んぼがありまた廃校からの徒歩圏内に住宅が存在する。人が住み、人が食べる物を作る場所が、この地域には広がっている。



Detail



Story



少子高齢化により、農山村地域では人口が減少し、学校も廃校してしまった。このままでは若者も離れていき、地域で農業を営むものもいなくなってしまう。



外部からきた若者たちは、廃校のキッチンでごはんを食べることで地域の人たちと顔を合わせる機会が多くなり、地域の人たちと仲良くなれる。そして、採れたて野菜や自分で育てた野菜を調理する面白さに気づく。



そこで、若者向けに農業体験を住み込みで学ぶことが出来る一時滞在施設を学校に作り、かつ地域に開けたキッチンをつくり、地域の人たちが廃校に出入りすることが出来る様にする。



徐々に地域になじみ、やがて自分で農業を工夫しようと試みるように。おいしい採れたて野菜と廃校のキッチンによる共同で行うごはんづくりによって新しいコミュニティが野菜と同様育まれる様になる。